

完全甘ガキの早生品種 「陽秋」を育成しました

背景

福岡県の柿の主力早生品種「西村早生」は、10～30%に渋みのある果実が発生するため、渋果を選別する手間や廃棄コストがかかっていました。

成果の内容

渋果が発生せず、「西村早生」より早い9月中旬に収穫可能で、糖度が高く、着色や食味に優れる完全甘ガキ早生品種「陽秋」を育成しました。

令和元～5年 果樹部調査（筑紫野市）

品種名	展葉期	開花盛期	収穫期	甘渋性
陽秋	3/22	5/15	9月中旬	完全甘ガキ (甘ガキの中で、種が入らなくても渋みが抜けるもの。)
西村早生	3/22	5/12	9月下旬	不完全甘ガキ (甘ガキの中で、種が多く入ると渋みが抜けるもの。 種が少ないと渋い部分がある。)

令和2～4年 果樹部調査（筑紫野市）

品種名	果重 (g)	果皮色 ¹⁾ (果頂)	硬度 (kg)	糖度 (° Brix)
陽秋	205	6.7	2.0	16.1
西村早生	189	5.2	3.4	13.7

1) 果皮色はカラーチャート数値で、値が大きいほど色が濃いことを示す



「陽秋」の果実の外観と断面



「陽秋」の結実状況

【研究者のコメント】

○「陽秋」の普及によって、生産者の労力軽減が図られることや消費者の皆様においしいカキが届けられることを願っています。



(果樹部 果樹育種・栽培チーム)